

この冬・北海道で開催される世界選手権大会に向けて、スキーオリエンテーリングはいよいよシーズン入り

初滑り合宿

11月北海道旭岳で行われた初滑り合宿には、日本各地、遠くは岡山から雪を求めて十数名のスキーオリエンティアが集結した。

今年は例年のない積雪量で、ふかふかの新雪を朝から晩まで、いや日が暮れても外灯をたよりにみんな滑り込んでいた。寝るか食べるか滑るかの非常に充実した合宿だった。

合宿最終日は氷点下16.5度という厳しい冷え込みだったが、日中は突き抜けるような青空が広がり、雪と空とのコントラストはまさに絶景。スキーはこういう日のためのスポーツだ！

吹雪や身体の芯まで凍るような寒さなど、自然の厳しさをいやというほど体感しているスポーツだからこそ、自然の優しさを感じることができたときの喜びは大きい。

スキーOのPR活動

日本で世界選手権が行われるという、選手が地の利を生かし、これまで以上の結果を残すことに意識が集中しがちだ。確かに競技の結果は重要だが、それ以外にもいろんな意味がある。

その一つがPRだ。スキーオリエンテーリングという非常にマイナーなスポーツを少しでも多くの方に知ってもらい、そこから普及にもつながるよう、私たちは自国で世界選手権が開催されるというチャンスを最大限に生かしたい。

周りの方々の協力もあってアウトドア誌、フリーペーパーへの投稿や、海外からのインタビューへの対応などを行ってきた。

先日は地元学生向けのコミュニティー誌の取材があり、オリンピック選手やプロ野球選手と同じ扱いでおおよそ90分の長いインタビューを受けてきた。

インタビュアーの学生が言うには、こんな私でもスポーツ選手としてのオーラがあるらしい。日本を代表するアスリートとしての自覚と自信をもって、これからも競技に取り組んでいきたいと思った。



旭岳合宿。先頭を滑るのは日本女子のエース酒井佳子。続いて実力伸張著しい黒田幹朗。後ろからのマクリに堀江守弘。

最後に色紙へのサインを要求されたときにはかなり戸惑ったが、座右の銘とフルネームを堂々と記入し、その場をつくらった。

ファンがいるわけでもなく、これまでサインを求められた経験といえばクレジットカードで買い物した時くらいだったが、これからは将来への期待を込めてサインを考えた方がいいのだろうか？ ちなみに、私の座右の銘は「やればできる」だ！

世界選手権に向けた取り組み

代表候補選手が全国に散らばっていることや、それぞれの環境の問題から、チーム全員で顔を合わせるのには残念ながら2月に行われる選考レースだけだ。監督やコーチも不在のままついに2009年を迎えようとしている。

少しでもよい結果を出すために、チームとして最大限の準備を行ってきたかといえばそれには疑問が残る。しか

し、この環境でやるだけのことをやるしかない。

合宿では、私がコーチ役を務めスキー技術の向上を目指してきた。人に教えることから自分にフィードバックして、自分自身のテクニックも磨いてきた。

これからは、長野でのクリスマス合宿や1月のスキーOツアーと呼ばれる欧州遠征がある。ドイツに飛んでオーストリア、イタリア、スイスと10日間で4カ国をはしごするシリーズレースだ。世界レベルのスキーOをする機会は、世界選手権まででスキーOツアーが最後になると思う。武者修行という心構えで挑もう。

最後に一言

3月の世界選手権の際は、ぜひ北海道に足を運び、私たちの滑り、世界の滑りを見て下さい！

(堀江守弘)